

新年のごあいさつ

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様におかれましてはコロナ禍での自粛生活という例年とは違ったお正月をお迎えのことと拝察し、心からおめでとうございまして申し上げますことが心苦しく思われます。今年こそワクチン接種や治療薬の開発で、一日でも早くこの感染症が終息すること、そして新年が皆様にとって素晴らしい年になりますことを願いつつ“明けましておめでとうございまして”。

令和3年が幕を明けました。新年にあたり心機一転の思いで今年の抱負を申し上げたいと存じます。

今や村政の最重点課題はコロナ感染症から村民の皆様方をお守りすることにあると思っております。いつ、誰が感染するかわからない状況だからこそ、村民の皆様が感染しないようにすること、感染してしまった方への治療や療養への備え、コロナ禍の中での新しい生活様式への対応、経済対策の推進、村内でクラスターが発生したときの危機管理などについて万全を期してまいり所存であります。

次に、今後の東白川村のあるべき姿について所信を述べてまいります。昨年10月の国勢調査の人口が2,017人(速報値)となりました。5年前が2,261人でしたから、5年間で244人減少したことになります。単純計算で1年間に49人ずつ減ってきた訳であり、今後この傾向は数年間続くことに間違いありません。そこで、重要なことが2点あります。

1点目は、減少のスピードを少しでも緩くし、小さくても暮らしやすい持続性のある村にすることです。

2点目は、行政も住民組織も各生産団体もこの人口減少時代にどうあるべきか議論を尽くし、伸ばすところは伸ばし、縮小するところは思い切って縮小していく計画を持つことにあると思っております。今まで東白川村のあらゆる組織や制度は三千人から二千人規模へ減少していくことを想定しながら運営されてきましたが、今後は二千人から減少を続けることを想定しながらの村づくりが必要となってきます。令和3年はその転換期にあると思っております。

今まで、こうした人口推移も見据えて村に力の有るうちにと考え、診療所・老健の新設移転、光ファイバーの整備、小中学校及びはなのき会館の改修などの大事業を完成してまいりました。引き続き国・県・村道の整備、砂防工事などの防災対策、公共施設の長寿命化などのハード事業と、福祉や医療・教育の充実などのソフト事業の充実は進めてまいりますが、身の丈に合った村の財政規律を守りながらの村政運営を行なう必要があると考えております。

人口は減少してまいりますが、東白川村が小さいながらも光輝く田舎として生き残っていかなくてはなりません。コロナ禍、コロナ後の社会を見据えたとき、どのような厳しい状況下にあっても、この村で暮らすお年寄、働く人達、村の宝である子ども達や若人も希望を持って東白川村を「守るべきふるさと」として誇りに思える地域社会を創っていくことがこれからの村づくりで一番大事なことと考えています。

以上、所信の一端を述べ新年のごあいさつといたします。

令和3年1月1日

東白川村長 今井俊郎